

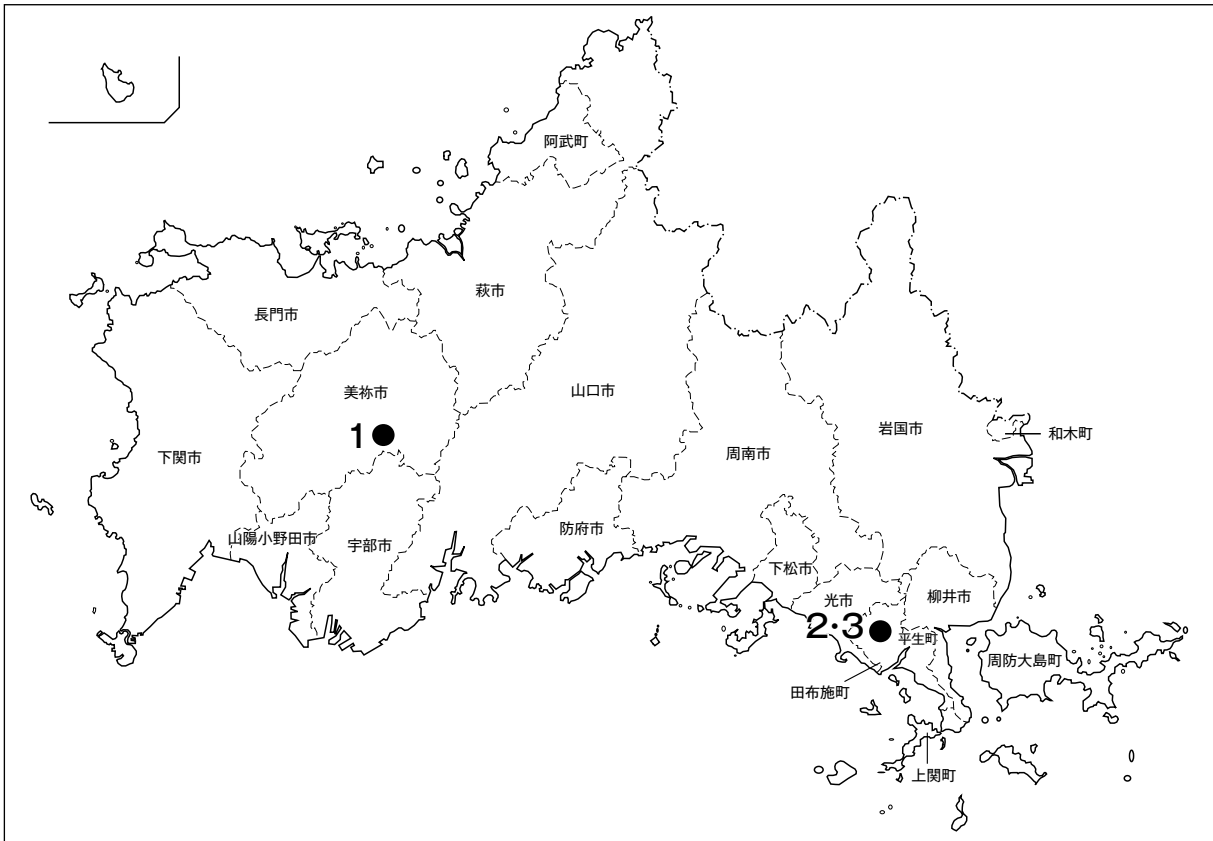
山口県埋蔵文化財センター第50回展示

掘っちょる山口

- 時をもどそう -



令和2年度発掘調査の成果等



遺跡の場所

ほりうち
1 堀の内遺跡 (美祿市)

すけもと もりなが
2・3 助本遺跡・森永遺跡 (田布施町)

展示遺跡年表

中心時期

その他確認された時期

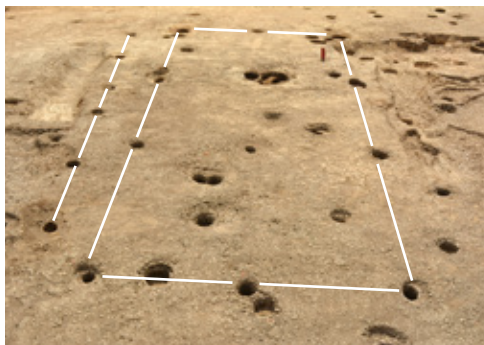
時代	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	鎌倉	室町	安土桃山	江戸	明治			
展示遺跡の時代														
堀の内遺跡														
助本遺跡														
森永遺跡														
プレイバック 展示遺跡	[Orange bar spanning all periods]													
おもなできごと	<ul style="list-style-type: none"> 狩りをしてくらす 	<ul style="list-style-type: none"> 縄文土器や石器・弓矢が使われる 	<ul style="list-style-type: none"> 狩猟・漁労・採集を行うムラができる 大陸から日本列島に稲作・金属器が伝わる 	<ul style="list-style-type: none"> 卑弥呼が邪馬台国を治める(『魏志』) 集落が営まれる(堀の内遺跡) 各地にクニがつくられる(『漢書』) 	<ul style="list-style-type: none"> 木製農具が使用される(森永遺跡) ヤマト政権による国土の統一が進む 	<ul style="list-style-type: none"> 七五二 東大寺の大仏ができる 七一〇 平城京に都を定める 	<ul style="list-style-type: none"> 七九四 平安京に都を移す 	<ul style="list-style-type: none"> 一一八五 鎌倉幕府が成立する 	<ul style="list-style-type: none"> 一一六七 平清盛が政治の実権をにぎる 集落が営まれる(堀の内遺跡) 	<ul style="list-style-type: none"> 一一八五 鎌倉幕府が成立する 	<ul style="list-style-type: none"> 一四六七 応仁の乱が起こる 	<ul style="list-style-type: none"> 一六三八 足利尊氏が京都に幕府を開く 	<ul style="list-style-type: none"> 一六三七 長州藩錢座が設置される 一六〇三 徳川家康が江戸に幕府を開く 一五九〇 豊臣秀吉が全国を統一する 	<ul style="list-style-type: none"> 一八六八 明治維新 江戸を東京とする



西上空から見た調査地



多量の土器が出土した穴



掘立柱建物

ほり うち い せき 堀の内遺跡 (美祿市)

堀の内遺跡は、美祿市秋芳町岩永本郷東地区にあります。弥生時代後期と平安時代末～鎌倉時代、及び江戸時代の遺跡です。

今回の調査で、弥生時代後期の円形竪穴住居が見つかっています。床面でたくさんの炭化材や焼土が見つかり、この住居が焼失したことがわかりました。平安時代末から鎌倉時代においては、掘立柱建物や、多量の土器が捨てられた穴が見つかりました。この穴からは土師器の皿・杯・椀とともに、中国製の青磁・白磁の椀や皿も出土しています。近畿方面から持ち込まれた灰色の土器(瓦器椀)もたくさん見つかりました。

そのほかに、鉄鏃や鍛冶関連の遺物も見つかり、岩永地区の文献史料を補う貴重な成果を得ることができました。



東上空から見た調査区全景



掘立柱建物全景



土坑 1 の炭化物出土状況

すけもと いせき 助本遺跡 (田布施町)

助本遺跡は、山口県東部、田布施町のほぼ中央部に位置し、才賀川^{さいが}にのぞむ標高約 20～21 m の丘陵のふもとに立地しています。

調査区内では、平安時代から鎌倉時代の掘立柱^{ほったてばしら}建物 1 棟、溝 3 条、土坑^{どこう} 4 基、柱穴約 130 個の遺構が見つかりました。また、弥生時代、古墳時代、平安時代から江戸時代にかけての石器、土師器^{はじき}、須恵器^{すえき}、輸入陶磁器、瓦質土器^{がしつ}、石製品、鉄製品などが出土しました。そのため、助本遺跡が平安時代から江戸時代にかけて営まれた集落の一部であることが明らかとなりました。なお、検出した遺構の中で特殊なものに火葬土坑^{かそう}と考えられる穴があります。穴の内部からは多量の炭化物や炭化材のほか、火をうけた数珠玉^{じゆずだま}や鉄釘^{てつぎ}、儀礼^{ぎれい}で用いた土師器^{つぎ}の杯、さらにはごく少量の骨細片も出土しました。



南上空から見た調査区全景



トレンチ1 土器・木製品出土状況



トレンチ3 北端土器出土状況

もりながいせき
森永遺跡 (田布施町)

森永遺跡は、助本遺跡から約 300 m 離れた標高約 20 m 付近の丘陵のふもと近くにありま。調査の結果、古墳時代以降の土坑^{どこう} 1 基、性格不明遺構 1 基、柱穴約 40 個などの遺構が見つかりました。

遺物包含層からは、弥生時代の土器や石器、古墳時代の土師器^{はじき}や木製品、平安時代から室町時代にかけての土器などが出土しました。特にトレンチ（試掘溝）1 の暗青灰色粘土から出土した古墳時代の木製の平鋤^{ひらくわ}は、当時の農具を知る上で貴重な資料です。

調査区内の地山は北および東に向かって傾斜し、堆積層の厚さも比例して厚くなっていました。中でも暗青灰色粘土の遺物包含層は、湿地の堆積土で、水気を含んでいたため、木製品は腐らず、土器の摩滅^{くさ}や風化^{まめつ}が見られず、捨てられた当時のままの状態が保たれていました。

【特集展示】プレイバックまいぶん

山口県埋蔵文化財センターは、昭和 55 (1980) 年に開館し、その後平成を経て令和の世を迎え、現在に至ります。そしてその間、当センターは多くの貴重な発見により山口県の歴史解明に貢献してきました。

本特集展示ではこれまで調査した延べ約 280 遺跡の中から 9 遺跡 (★印の遺跡) を選び、代表的な出土品を展示して各遺跡のもつ重要性を解説するとともに調査当時の時代背景を振り返ります。



山口盆地で前方後円墳発見 (1981 ★朝田墳墓群 [山口市])



環濠と墓域を伴う高地性集落 (1985~86 ★岡山遺跡 [周南市])



本州で唯一の石鍋生産遺跡 (1986 ★下請川南遺跡 [宇部市])



弥生人の顔 (1988 ★綾羅木郷台地遺跡 [下関市])



3重の濠で守られた高地性集落 (1988 清水遺跡 [岩国市])



未盗掘の中期前方後円墳 (1990 妙徳寺山古墳 [山陽小野田市])



銅生産に関わるムラ (1991 国秀遺跡 [美祢市])



国内最大の分銅形土製品 (1993 ★明地遺跡 [田布施町])



再び姿を現した天守台 (1994 岩国城跡 [岩国市])



高杉晋作が使った茶碗か? (1995 奇兵隊陣屋跡 [下関市])



山口湾を見下ろす群集墳 (1996～97 大浦古墳群 [山口市])



県内最大級の弥生集落 (1997～2003 ★吉永遺跡 [下関市])



江戸時代のくらしがわかる (1997～2004 ★萩城跡外堀地区 [萩市])



「海城」の全貌が明らかに (1998 上関城跡 [上関町])



ついに瓦質土器生産地が判明 (2000 原遺跡 [防府市])



長州藩の大砲はここでつくった(2000～01 郡司鑄造所跡[萩市])



海辺にほうむられた弥生人(2001 武久浜墳墓群 [下関市])



地下4mに眠る縄文の品々(2005～09 ★田ノ浦遺跡[上関町])



佐波川中流に弥生の見張り台(2006～07 真尾猪の山遺跡[防府市])



県内最大級の中世集落(2007～09 ★上り熊遺跡 [防府市])



県内初の古代銅印(2012 尾尻遺跡 [田布施町])



土石流にうもれた中世寺院(2016～17 阿弥陀寺 [防府市])

利用案内

- 開館時間 午前8時30分～午後5時
- 休館日 土・日曜日、国民の祝日、年末・年始
- 入館料 無料

編集・発行 公益財団法人山口県ひとつづくり財団
 山口県埋蔵文化財センター
 〒753-0073 山口市春日町3番22号
 TEL:083-923-1060 FAX:083-923-2001
 URL:<http://www.y-maibun.jp/>